

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 古川建三

JR東労組

本部OB会

ニュース

No. 198 2014年4月 発行

3・11から3年、被災地の今

～進まぬ復興、長引く避難生活に苦しむOB～

あの3・11東日本大震災から3年が経ちました。先月3月11日には、都内で政府主催の追悼式が行われるなど、全国各地で犠牲者を悼む式典が行われ、日本列島は鎮魂の祈りに包まれました。

本部OB会も開催中の「第8回役員会」を中座して、午後2時46分に中央本部役員と共に、黙祷を捧げ犠牲者を悼みました。

あの震災から3年がたった今、被災者は遅々として進まぬ被災地の復興に、生活再建どころか心の傷も癒えぬまま、苦悶の日々を送っています。

被災地の現状

3・11東日本大震災では、岩手、宮城、福島を3県を中心にして、大きな被害を出しました。

今年3月現在の被害状況は、

死者	15,884人
行方不明者	2,633人
避難者	267,419人

となっています。

本部OB会は、この1月に甚大な被害を出した岩手県の陸前高田市と宮城県の気仙沼市の復興ぶりを現地調査しました。それによると、家が流された住宅街は、整地になっていました。ただの1軒の住宅も建ってはいませんでした。また何処の場所に新しい住宅街をつくるのか、決まっていない自治体もあります。

15名の被災OB会員は

地震と津波で自宅を全壊した15名のOB会員は、いまだどのような住宅で暮らしているのでしょうか。

3月現在、仮設住宅にいる人が7名、民間のアパートで生活している人が2名、自宅を再建、もしくは再建中の人が6名となっております。大半の人が、先行きの不安を抱えた

まま不自由な生活をしているのです。また仮設住宅を出たと言っても、狭い仮設住宅では親の介護も出来ず、止む無く出た人もいます。

OB会のこれまでの支援活動

本部OB会は、「被災したOB会員に、何が出来るのか」と悩みながら、その年の4月に初の「臨時地本OB会代表者会議」を開催し、「義援金の取り組み」と「被災家族の激励と現地調査」を決定し、9月に宮城県の石巻市に行きました。また被災した15名のOB会員に、各地方の名産品を送って激励をしてみました。

大きくなる健康問題

今震災関連死者が増えているといわれています。かつての阪神淡路大震災の時もそうでした。仮設住宅での孤独死や、健康を害する人が増えているのです。特につらい出来事を体験した人に起きる「心的外傷後ストレス障害 (PTSD)」や、仮設住宅の生活が長い人に起きやすい「うつ」や「アルコール依存症」等です。

仮設住宅に住んでいる被災者へは、今後も創意工夫しながら支援を続けて行かなければなりません。

まづは逃げる体力を

地元OB会とともに、絶対に被災者を孤立させないようにします。

また原発事故で、OB会員が各地に避難して「休業状態」になっている水戸地本の原ノ町支部OB会の「再建」も、急がなければなりません。

3・11大震災ではあれだけの犠牲者が出たにもかかわらず、OB会員からは一名の犠牲者も出ませんでした。自分の足で逃げたからです。

この自分の力で逃げられる健康体であることが、今後予想される「東南海地震」や「首都圏直下型地震」に備えるOB会員に対しての何よりの貴重な教訓になりました。

従って本部OB会は、一人ひとりの会員が孤立しないで楽しく集えるレクリエーション活動に力を入れて、健康な体づくりを行っていく考えです。

JR東労組OB会員の皆様へ

(株)鉄道ファミリーより、昨年に引き続きアフラックの「がん保険・医療保険」を夏から秋にかけてご案内させていただきます。ぜひ、この機会にご家族の皆様と共にご検討の上お申し込みください(OB会員は団体割引です)。

・お問い合わせ先 株式会社 鉄道ファミリー
〒141-0031
東京都品川区西五反田3丁目2番13号
フリーダイヤル 0120-49-8810

「たしろかおる後援会」

加入の取り組み締め切り
間近に迫る!
締切り 4月末

東京地本がOBに訴える集会を開催!

2月28日、都内の北とびあにおいて、東京地本主催の「現役からOBへ!訴える」集会が開催されました。これは国鉄改革を担い、今あるJR東日本の基礎を作ったOB会員に、現役から「職場の現実」を報告してもらった集会でした。

たしろ議員再選に向けて

鳴海地本委員長から、2年半後に控えた「たしろ再選の取り組みに、OBの協力をお願いしたい」と強い要請がありました。更に「現在現役は、たしろ後援会加入拡大と紹介者カードの取り組みを、苦勞しながら頑張っている。9月以降は、青年部が中心になってOB宅へ協力要請に伺う」と、総連・本部が作成した「応援プロジェクト」計画に基づいて、丁寧な説明がありました。たしろ議員は、大震災後の復

わが町の 有名人

長野地本OB
会副会長で、佐久支部OB会長の通称「みさやん」こと美斉津(みさいづ)武さんを紹介します。

美斉津さんは、気は細やかだけど、とても明るい性格なので、現役の頃から同僚からも部下からも慕われていました。

また技術力もあるので、第二の人生で再就職した会社からも、「もう少し残ってくれ」と大分慰留された

旧・復興で汗を流し、グリーンスタッフ社員の正社員化、駅社員への暴力問題や、石綿による健康被害対策など精力的な議員活動をしています。集会に参加したOBは、たしろ議員と現役の苦闘を共有し、連帯していくために、今から出来ることを着実に取り組む決意を固めました。

「強制転勤」と自殺の事実

続いて新幹線第二運転所分会の鈴木書記長から「現場からの報告」があり、異常な「強制転勤」の現実がリアルに語られました。希望しない転勤、時期も転勤先も云わない不安だけをあおる異動は、我々が築きあげた「安定・安全輸送」の根幹を否定するものです。この動きが、運転士から車掌へと広がっていることにも怒りを禁じ得ません。

こうした不安が募る職場の中で、36歳の新幹線運転士が、昨年末「些細な業務上のミスを担当助役に報告しなかった」と自らを責めて、命を

絶つ不幸な出来事がありました。

この背景には職場の中に「会社に見えたら自分も、いつ飛ばされるか分らない」という、強迫観念が蔓延していたことが指摘されています。私たちOBは、国鉄改革を塗炭の苦しみで乗り越え、「雇用」を守ってきました。しかし、今日のJR東日本会社の職場には、白人支配が公然と存在し、過度な競争やチャレンジの強要が行われていることに、強い怒りと危機感を覚えます。

参加したOB会員からは、「原発事故は人災であり、再稼働には反対だ!その先頭にたしろ議員に立ってほしい」と、「支部選対は、地域にいるOBを活用して下さい」「たしろ議員はアスベスト問題で、動いてくれた」「理不尽な強制転勤の話聞いた。広域で出てきたが、こんな会社にした覚えはない」等の意見が出されました。私たちOB会は集会に参加して、現役と共に闘うことを決意しました。

(東京地本OB会・森下 彰司)

のですが、「第三の人生を楽しもう」と退職を決意したようです。今はシニア大学で知識を深めながらマジック教室にも通い、同じ仲間とともに病院や介護施設などへ慰問に訪れる日々を過ごしています。

小諾のマジシャン

その予定表には、空白がないほどびっしりと日程が書き込まれています。そのためにはネタを仕入れる事も大変ですが、それを使っての練習には、これまた大変な時間を費やしています。



小諾市在住・美斉津武・69歳

そんな美斉津さんですが、佐久支部OB会長としての責任感は一層で、多くの人に喜んでもらうという優しさは、これまた他人にはまねのできないものがあります。慰問に訪れたマジックショーで、見事に「ネタ」を決めた時の美斉津さんの姿はとて

逆流に抗し、脱原発のうねりを更に大きく!

フクシマを忘れない3・15集会

3.11 東日本大震災から3年経過後初の大規模脱原発集会が、3月15日東京の日比谷野外音楽堂で開催されました。当日は、それまでの寒さとは打って変わり、快晴の天候に恵まれました。全国から集まった5千500名の参加者で、会場は埋め尽くされました。JR東労組OB会の仲間も、現役組合員と共に各県9条連の仲間と一緒に参加してきました。

この集会は、3年を経過し安倍政権が原発再稼働を企む中で、「原発はいらない」という民意を無視し、鹿児島島の川内原発を安全審査の優先で再稼働しようとしている流れを許さず、脱原発のうねりを更に大きくするために開催されたものです。主催者の大江健三郎さんや、応援アピールの秋山豊寛元宇宙飛行士は、安倍政権を舌鋒鋭く批判し、「無責任を許すな」「こんな世の中を変えよう」と訴え、参加者からの大きな共感を受けていました。

参加者は、集会終了後デモ行進に移り、東電本社前での抗議とともに道行く人々に「福島を忘れる

な」「脱原発・再稼働反対」を訴えてきました。

私たちOBは、今後も子や孫の為にも更に脱原発を闘っていきましょう。



退職者連合が「女性問題」で勉強会

3月4日退職者連合は、東京御茶ノ水の「連合会館」で、「低所得高齢単身女性問題について」の勉強会を開催しました。勉強会には男女合わせて120名が参加し、JR東労組OB会からも役員3名が参加しました。

退職者連合は、これまでも「主要な社会問題の一つになりつつある低所得高齢単身女性の課題」について、体系的な施策を検討・実施するよう国に求めてきました。

この日の勉強会の講師は「NPO法人高齢社会をよくする女性の会」理事長の樋口恵子さんで、「日本の女性の〈社会的〉経済的地位が弱いのは、政府の女性に対する雇用の問題にある」と鋭く指摘しました。また世の男性に対しても、耳の痛い辛口の批評もありました。

この日來賓として参加した連合の南部美千代副事務局長は、「パートや非正規で働く高齢者が増えているが、これは現役の課題でもあるので、支えてほしい」と現退一致の連携の必要性を訴えていました。

JR東労組OB会には、現在女性会員はほとんどいません。しかし、今後新宿や仙台のJR病院の退職者を仲間として組織化していく課題があります。今後は女性OB会員とも手を携えて、活動の幅を広げ楽しいOB会に行きましょう。